

# JAUW 茨城支部だより 2022年度-2号

URL <http://jauw-ibaraki.net/> 2022年10月8日一般社団法人 大学女性協会(JAUW)茨城支部 発行

暑さ寒さも彼岸までと言いますが、朝夕はめっきり涼しくなりました。虫の声にも秋の気配を感じるこの頃です。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

コロナがまだ落ち着かない状況のなか、開催できると心配していましたが、今年は無事水戸市男女平等参画推進月間市民企画講座を予定通り開催することができました。去年は「女たちは” YOROI ” を脱いだか? ~ホンネの座談会~」でしたが、今年は「男たちは” KABUTO ” を脱いだか? ~ホンネの座談会~」という演題で男性4人の方にご登壇いただきホンネを語っていただきました。KABUTOを脱げない70代、初めからKABUTOを被っていない30代と世代によって違いがあることが示されました。30代40代の方の話から、男女平等参画社会(すべての人の人権を尊重し、責任を分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮できる社会)の実現に明るい兆しが見えました。



過日「みんなの学校」というドキュメンタリー映画を鑑賞しました。大阪にある公立の「大空小学校」を追ったドキュメンタリー映画です。校則はなく、「自分がされていやなことは人にしない。言わない。」という一つの約束があるだけです。児童約220人のうち、特別支援の対象となる子どもたち30名が同じクラスと一緒に学んでいる映像から本当のインクルーシブ教育がここにあると強く思いました。全体朝礼の時、先生が号令をかけるのではなく6年生のリーダーが自分の列に並んでいる1年から5年までの子どもたちに声をかけます。子ども同士の学び合う関係づくりに徹しています。門を閉めて必要以外の人が自由に入れない学校が多いと思いますが、大空小学校は違います。保護者や地域の人たちがサポーターとして学校に自由に出入りしています。子どもたちと会話したり、登下校時の見守りをしています。あたり前の教育とは何かを深く考えさせられました。(支部長 安藤)

## 📢情報提供📢

当協会茨城支部は、(公財)茨城県国際交流協会に団体登録しています。最近「地域日本語教育体制づくり事業」(文化庁補助)を勧められています。県内を4つの地域に分け地域日本語教育コーディネーターを配置し強化を図っています。:ヒラメ(県央~県北)エリア担当・ヒバリ(県央~鹿行)エリア担当・ウメ(県西)エリア担当・バラ(県南)エリア担当:支援者養成講座(オンライン)が11月、1月に予定されています。

問合せ:(公財)茨城県国際交流協会 ☎029-241-1611



## 「男たちはKABUTOを脱いだか」の進行役を終えて

中島美那子

水戸市にて9/17に開催しました「男たちはKABUTOを脱いだか」で進行役を務めさせていただきました。当日の2週間ほど前に登壇者全員と安藤支部長とで行った打ち合わせの時から大いに話は盛り上がり、当日を迎えるのをとても楽しみにしていました。そして当日を迎え、私自身進行役ではありながら、予想通りとても有意義な時間となりました。

はじめに70歳代表の長谷川氏、50歳代表の木村氏、40歳代表の小泉氏、そして30歳代表の直井氏それぞれに、ご自身の現在に至る人生から将来の展望までを自由に語っていただき、その後、フロアから質問をいただくこととしました。お一人のお話の時間が15分と、とても短かったこともあり、多くの方から質問が出て、参加者みなさまの興味の深さが伝わるようでした。

以下は、私の印象に残った4名の登壇者のご発言です。

~~~~~

**長谷川氏:** 自分は兜は脱げない。でも兜の形を変えながら今に至っている。

**木村氏:** 男性にできないことは出産と授乳だけ。それ以外は何でも出来る。

**小泉氏:** 兜とか男女とか意識したことがない。奥さんが忙しそうだからただそれをサポートしたいだけ。

**直井氏:** そもそも自分は、兜は初めからかぶってなかったと思う。育休も取りたいから取っただけ。

~~~~~

私にとって今回は、以前より感じていた「男性のジェンダー平等化が日本を救う」ということを改めて強く感じ、今後もどんどん発信していこう決意をあらたにする会となりました。



### 水戸市男女平等参画推進月間市民企画講座

#### 男たちは“KABUTO”をおいたか～ホンネの座談会～ 9月17日



わが支部がこの講座に応募始めたのは2013年、今年で10回目となる。今回の講座のタイトルは、【男たちは“KABUTO”を脱いだか】～ホンネの座談会～。進行役の中島会員以外はすべて男性の登壇者というユニークな企画である。参加者も男性6名含む27名が、男性登壇者のホンネの人生体験を興味深く伺い、フロアからの質問も活発にあり有意義な講座となった。

- ① 70代の代表は、茨城県生涯学習・社会教育研究会会長の長谷川幸介氏。2017年に発刊した支部初の『YOROIを脱いで・・・』の本制作の監修者でもある。62歳で大学の同窓生と結婚されて10年になられる。団塊の世代の代表として、戦前の男尊女卑から戦後教育を受け、形式的に男女平等は受けてきたが実質的にはわかっていない世代。4年前ロンドンに行きLGBTのパレードを見て取り残されたように感じた。男という兜を脱げば、醜い自

分が出るようで【KABUTO】は脱げないと発言された。

- ② 50代の代表はキムテック代表・絵本ライブの木村隆弘氏。団塊ジュニアに当たる。パートナーと死別し、シングルファーザーとなり男というプライド【KABUTO】は脱ぐしかなかったという。育児・家事すべてやらざるを得なくなり、全てこなしてきた。NPO法人ファザーリングのサポートやママ友の助けも得ながら、父親を楽しみながら生きてきた。アルゼンチンのメッシの「できることから始めよう！」という言葉が支えになった。出産と授乳以外は、やらなかっただけで男も全てやりこなせると断言された。
- ③ 40代の代表は、雑貨屋サニーサンデ店主・鯨ヶ丘商店会 副会長の小泉正人氏。看護師のパートナーと3人のお子さんを持つ。20代で結婚され電気店で働いていたが人間関係で生き詰まり仕事を退職。次の仕事が見つからない一年間、妻から「私がいるから大丈夫だよ」と言われホットした。男だからという【KABUTO】を脱いで新しい仕事、店を持つことや地域活動にも従事できるようになった。店の開店資金として銀行では妻の収入がメインとなり葛藤もあったが、プライドを捨て一心同体で乗り切るという思いだった。支えてくれた妻の仕事をリスペクトし、感謝の言葉「ありがとう」を言うようにしてきた。家事労働も互いにできることをアバウトに補い合ってきた。例えば、洗濯干すのは私で畳むのは妻というように、お互いにできることを補い助け合い嫌味を言わないようにしてきた。
- ④ 30代の代表は、子育て探検家の直井雄一郎氏。ゆとり世代の代表である。平成元年生まれで姉と妹、祖母と女性に囲まれて育った。混合名簿教育を受け、男女別を意識したことがない。【KABUTO】は脱いで何を着たか？で話をされた。妻はコーヒーショップを営んでいる。小学校の先生をされている時、育休を8か月取得した。当時は、育休取得率が女性の85.1%に比して男性は13.97%に過ぎなかった。第1に子育てをしてみたかったこと、第2に妻に仕事をして欲しかったこと、第3には仕事の現場から離れてみたいという3つの理由から、8か月という長い育児休暇を取得した。授乳には、コーヒーショップを営む妻の店に通い、それ以外は育児も家事もこなしてきた。長い育休取得には職場の温かい理解と支援が得られた。仕事という兜を脱いで、子育て探検隊というコスチュームを着て育休も素晴らしいという体験を得た。小学校の教師は10年で退職し、太田市に中古物件の家を購入した。子ども中心の家庭を築いていくことの素晴らしさ、子育ての居場所、応援施設として提供していきたいと考えている。



全員から、年代の違いや若者の考え方を知ることができ面白かった。想像以上に若い世代の生き方や考え方が変わってきたと実感した。答えは一つでないが「鎧を脱いだか？パート2」「兜を置いたか？パート2」を期待したいという感想があった。進行役の中島会員の優しい問いかけに、男性たちが本音で人生を語ってくれたことに感謝したい。

まとめとして中島会員からハワイ研修から学んだこととして2点紹介された。

- 85歳の女性のインタビューから、妻が家を空けキャリアを積むことに、夫は当たり前シンプルに応援していたこと。
- 親世代ができなかったことを感じ取り、自由に選択し多様な生き方をすることが求められて

いるのではないか。

(加藤 光子)

## 2022年度(一社)大学女性協会 主催 公開シンポジウム

「教育・ジェンダー・共生」～ユースの視点から見直そう これからの日本～

日時：2022年10月22日(土) 10:30~16:00

開催方式：対面+ZOOM

参加費：1,000円

申込締切：2022年10月15日(土) 振込期限：10月17日(月)

### 今後の予定

#### ◆ひと・まち男女共同参画推進事業

「女たちは” YORO I ”を脱いだか? ~ホンの座談会~PART 2」

女性だからという” YORO I ”はどういう壁でしょうか。

” YORO I ”を脱いでやわらかな衣をまとうことができたでしょうか。

社会的・文化的に作られたジェンダーを問い直してみませんか。

次の世代のために。

80代、60代、40代、30代の各世代の女性によるホンネトーク

ファシリテーター 中島美那子(茨城キリスト教大学教授、会員)

日時：2022年11月13日(日) 13:30~15:30

会場：セキショウ・ウェルビーイング福祉会館(茨城県総合福祉会館)小研修室A

〒310-8586 水戸市千波町1918

TEL 029-244-4545

申込：後日チラシ・申込書を配布します。

Mail：[gqyq8qg9k@diary.ocn.ne.jp](mailto:gqyq8qg9k@diary.ocn.ne.jp)

※ メールでの申し込みの場合、件名に講座名を記してください。

#### ◆1月 新年会

#### ◆2月 公開定例会「子育ての社会化を考える」

皆さん、ふるってご参加ください!!!

### ◎編集後記

9月17日(土)の本音の座談会では認識が大分ずれていることを思い知らされた。まず、若い年代の男性の方たちの意識が想像を超えて変わってきていることに吃驚した。KABUTOを着ている認識はなかったという。今回の30代40代の方のように男性たちが子育てを楽しむ方向へ向かって変わってきているのだとしたら嬉しい。

KABUTOを脱いだか、のテーマからはずれるが、50代の男性が、「妻が亡くなった後、母が毎日家事の手伝いに来てくれた。感謝しているし助かっているが、ささいなことが気になり初めなにか自分の家ではないようなモヤモヤした気持ちになった。嫁姑の争いというのはこういうことかと思った。」と語っていらしたのには思わず「そうなんです!」とうなずいてしまった。家事・育児を全て自分でやると覚悟したからこそその感想で



あろうと思った。

(夢見る昔少女)